

編集後記

ANMは順調にインパクトファクターを上げ、国際誌として認知されるに至りました。ここ数年、インパクトファクターは1.5前後を推移していますが、出版社の現状分析の結果では、来年度はさらに上昇が見込めるとのことです。これも、ANMへのご投稿、査読の労など、会員の皆様のご尽力あってのことと感謝申し上げます。

編集委員会では、本誌をより一層の高みにあげるために、出版社と協力して改善策の議論を行っています。この中で、若干気になることを出版社側から指摘されました。会員の少なからぬ論文が、同じレベルの国外競合誌（Nuclear Medicine Communications等）に掲載されていることです。投稿雑誌の選択には、種々の要因があるかと存じます。もしかすると、ANMの審査が厳しくなっている傾向を感じられるため、競合誌に投稿されているのかもしれない。最近の全投稿論文の採択率は30%前後、原著論文で35-40%ですが、国内からの投稿に限っていえば50%強の採択率です。このことは、日本の先生方の投稿論文の質の高さを示しています。したがって、編集に関わる者にとって、学会論文の競合他誌掲載は、ANM

の発展にとって大きな損失であると感じられます。

一方で、国内外の論文の採択率の差は、海外から質の高い論文を呼び込めていないということも意味しています。久田賞が国外論文にも門戸が開かれてから、国外著者に授与されたのは、わずかに1件であることもこの事実を裏付けています。この改善の一方策として、昨年のEANM総会から、各国際学会で日核ブースを出してANMプロモーションを行っています。

私が核医学の世界に入った時代には、EJNMMI（当時はEJNM）はヨーロッパという地方のローカル誌のようなものでした。今では、JNMと肩を並べる存在にまでなっています。冒頭にANMは国際誌であると述べましたが、まだローカル誌の雰囲気が残っている状態なのかなと思います。これから脱するには、逆説的ですが、国内の先生方から質の高い論文を多くいただくことが重要なのだと思います。それによってANM全体の質が上がり、海外から質の高い論文が投稿されることに繋がるのだと思います。会員の皆様のさらなるご理解とご助力を切に希望いたします。

（金沢大学 絹谷 清剛）

「核医学」第51巻4号 平成26年11月30日発行 本号定価（本体価格1,800円+消費税）

編集兼発行者 絹谷 清剛

〒113-0021 東京都文京区本駒込2-28-45 (公社)日本アイソトープ協会本館3階

発行所 一般社団法人 日本核医学会

振替口座 00180-5-741770 番

電話 (03) 3947-0976 FAX (03) 3947-2535

E-mail : anm@xvg.biglobe.ne.jp

ホームページ : <http://www.jsnm.org/>

印刷所 株式会社 海川 企画

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里5-32-5 ウシオビル3階

電話 (03) 3806-0961 (代) FAX (03) 3806-0848

広告申込所 〒102-0071 東京都千代田区富士見2-12-8 電話 (03) 5226-2791 (代) 日本医学広告社